



ヴォネッケ『健康の庭』（零葉）ペーター・シェツファー印行 1485年
*Gart der Gesundheit / hrsg. von Johannes Wonnecke von Kaub --
 Mainz : Peter Schöffer , 1485*

CONTENTS

●新図書館長からのメッセージ	2 頁
●特集 ドイツの名著と出版社	4 頁
●平塚図書館 特設コーナー「ドイツにふれよう」	6 頁
●図書館の所蔵資料紹介 書物の中のデューラー	7 頁
●図書館からのお知らせ 今号の表紙 編集後記	8 頁

これからも図書館を、そして今こそ図書館を

神奈川大学図書館長 鳥越 輝昭

加藤周一（1919-2008）は広範な評論活動で知られたが、国内外の大学での教授経験も豊富だった。加藤の文章のなかに大学図書館にふれた箇所がある。

私が利用したいと思う日本語の文献で、大学の中央図書館にないものはなかった。しかも中央図書館は、私の所属する学部の建物に隣接し、深夜まで開いていた。私は、日本国の内外を含めて、文献に関するかぎり、これほど便利な経験をしたことがない。（『羊の歌』その後『加藤周一著作集 23』平凡社、1997）



スターリング記念図書館

加藤がここでいう「大学」は、日本の大学ではなく、アメリカのイエール大学のことであり、「中央図書館」とは、「スターリング記念図書館 (Sterling Memorial Library)」のことである。加藤は 1974 年9月から二年間、米国東部のこの大学で、大学院の学生たちに日本文学と日本史を教授した。

イエール大学の図書館は、現在、本館・分館・部局の図書の総計が 1,500 万点を超え、蔵書数が全米の大学図書館のなかで第2位。おもに人文社会系の図書を取める「中央図書館」だけでも、蔵書が 400 万点を超える。日本語文献については、1974 年当時に 93,000 点、現在は 290,000 点を所蔵している（本学図書館レファレンスカウンター調べ）。この大学図書館の歴史を見ると（Merrily E. Taylor, *The Yale University Library 1701-1978: its History, Collections, and Present Organization*, New Haven, 1978）、本学図書館にも参考になることがいくつかある。

第一に、努力の継続。イエール大学図書館の 1,500 万点を超える蔵書も、1701 年のわずか 40 数冊の寄贈に始まり、315 年間たゆまず集書が続いた結果である。本学図書館は現在蔵書 140 万点を有し、毎年2万点ずつ集書している。その努力を続ければ、130 年後にはイエール大学中央図書館の蔵書水準に達する。志を高く持ち続けよう。

集書努力を支えるのは、人類の知的活動への敬意である。書物はモノではない。書物には書き手の精神と生命が注ぎ込まれており、読まれると、あふれ出て、読み手の精神を動かし生命を豊かにする。図書館の所蔵する図書は、古く高価な書籍だけが貴重書なのではなく、買い換え可能な新刊書を除き、すべてが、かけがえのない貴重書である。大学の研究と教育は、図書館に充満するこの夥しい精神と生命が支えている。

第二に、寄付と寄贈。傑出したイエール大学図書館も、予算と収蔵スペースの不足に悩んでいた時期があった。それを救ったのは、篤志家と卒業生たちによる寄付と図書の寄贈である。中央図書館も、篤志家の多額の寄付金で建てられたものである。ただし、この篤志家が付けた条件は「耐久性のある、有用で美しい建物」を建てることだけだったから、その金を図書館建設に充てたのは、この大学経営陣の見識である。

本学図書館でも、積極的に学術図書の寄贈を募り、受け付けよう。むろん、それには横浜図書館の書庫の拡大が必須だが、そのプランはすでに出来上がっている。

みなとみらいキャンパスについては、「新図書館」をつくることを喧伝し、近隣の会社やホテルに法人館友になるように働きかけよう。東京の六本木ヒルズでは、仕事用スペース、少数の図書、カフェをセットにして、月額 9,000 円の会員制ライブラリーを運用している。本学の新図書館なら、静かな閲覧スペースと、経営学関連図書 15 万点、横浜と日本の観光文化に係わる図書など、総計 30 万点の図書資料の閲覧を提供できる。それこそが、本学ならではの産学連携と地域貢献だろう。

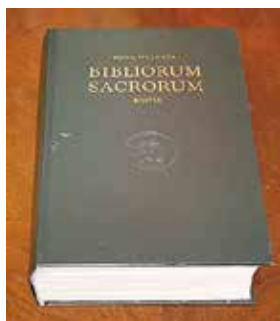


※ 鳥越先生は、前図書館長 外国語学部山口ヨシ子先生の副学長
就任と図書館長解職に伴い、2017 年 4 月 1 日に図書館長に
就任されました。

わたくしの好きな本・薦める本

推薦を必要としない本を二点挙げる。両書ともに英知が横溢している。ひとつは『論語』（岩波文庫、改訳 1999）。「学んで思わざれば即ち罔（くら）し、思うて学ばざれば即ち殆（あやう）し」は、学問の基本姿勢である。「吾れ日に三たび我が身を省みる。〈中略〉……習わざるを伝うるか」は、指導者への戒めである。

もうひとつは『聖書』（新共同訳、日本聖書協会、1987）。新約部分の「憐れみ深い人々は、幸いである。その人々は憐れみを受ける」は、生き方の基本姿勢である。それに、旧約部分の「創世記」は、19 世紀後半まで欧米のもののお考え方を規定していた。ウェルギーリウス『アエネーイス』を併せ読めば、その考え方が異質の世界観との危うい結合だったこともわかる。



聖書（ラテン語訳）

論語 / 孔子 ; 金谷治訳注 -- 東京 : 岩波書店 1999

請求記号 : B081-1572-41 (横浜 3 階開架)

081-2-359 (平塚 第 1 閲覧図書)

聖書 : 新共同訳 / 共同訳聖書実行委員会 訳 -- 東京 : 日本聖書協会、1987

請求記号 : B193-103 (横浜図書館 地下書庫上層)

アエネーイス / ウェルギーリウス ; 岡道男、高橋宏幸訳 -- 京都 : 京都大学学術出版会、2001

請求記号 : B992-25 (横浜図書館 地下書庫上層)

ドイツの名著と出版社

神奈川県では6月7日から11日にかけて「インターナショナルウィーク 2017 ドイツ」を開催しました。期間中は様々なイベントが行われましたが、横浜図書館ではドイツ映画の上映と展示を開催、平塚図書館では「特設コーナー ドイツに触れよう」と題して図書の紹介を行いました。今回は横浜図書館で行った展示『ドイツの文化と出版史』から、展示した資料の一部を紹介いたします。

ハルトクノッホ出版社 J. F. Hartknoch

創業者ヨハン・フリードリヒ・ハルトクノッホ（1740-1789）はドイツ、ケーニヒスベルクで書店の見習いとして働き、1765年に独立後ドイツ人居留地のバルト海沿岸地方ラトヴィアのリガで出版業を始めた。書店見習いの頃からカントと親交があり、カントが『批判』を完成したと聞くと、自分に出版させてほしいと説得したという。同出版社は〈三批判書〉最初の『純粹理性批判』（1781年）と『実践理性批判』（1788年）を出版し、1780年代のカントの主要著作の全てを出版している。



カント『実践理性批判』1788年

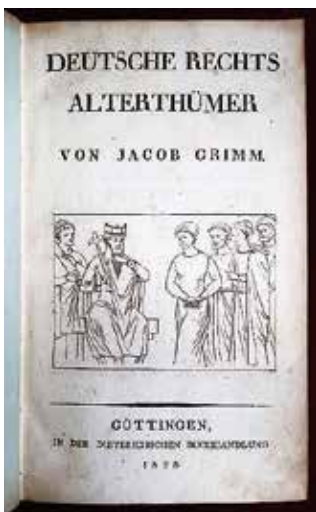
Critik der practischen Vernunft / von Immanuel Kant. -- Riga : J. F.

Hartknoch, 1788.

請求記号：A134.2-117（貴重資料）

カント（Immanuel Kant, 1724-1804）は、西欧近世における代表的哲学者の一人である。『純粹理性批判』『判断力批判』とともに〈三批判書〉とされ、本書は〈第二批判書〉とも呼ばれる。論理、行為を論じており、道徳哲学の最高傑作の一つであると評されている。

ディーテリヒ出版社 Dieterich Verlag



創業者ヨハン・クリスチャン・ディーテリヒ（1722-1800）はドイツのシュテンドール生まれ。ベルリンで絹商人として働いた後 1749年書店の娘と結婚して書店業を始め、1770年にゲッティンゲンで出版社を設立した。同時代のドイツの科学者リヒテンベルク（1742-1799）と親しく『ゲッティンゲン懐中暦』の編集を依頼、当時最新の科学や技術の知識を読者に提供した。また1770年には文芸誌『詩神年鑑（Musenalmanach）』の最初のシリーズ“Göttinger Musenalmanach”を発行した。

ヤーコプ・グリム『ドイツ法律古事誌』1828年

Deutsche Rechtsalterthümer / von Jacob Grimm. -- Göttingen : Dieterichsche Buchhandlung, 1828

請求記号：A845-87（貴重資料）

『グリム童話』で知られるグリム兄弟の兄ヤーコプは法律学、言語学、比較言語学の学者でもある。本書はゲルマン古代から近世に渡って法律の源となった慣習や法文、裁判の事例などを広く集め、体系的に考察したものである。

コッタ出版社 J.G.Cotta'sche Buchhandlung

1659年に設立されたコッタ出版社は、ヨハン・フリードリヒ・コッタ(1764-1832)の優れた経営手腕によってドイツにおける代表的な出版社として成長した。ドイツ古典主義と深く結びついた出版社として知られ、ゲーテやシラーなどの著作を出版し、特にゲーテの著作集は作者の存命中に3度も刊行された。

シェリング、ヘーゲル『哲学批判雑誌』1802-1803年

Kritisches Journal der Philosophie / "Schelling, Friedrich Wilhelm Joseph von, 1775-1854"--Tübingen : J.G.Cotta'sche Buchhandlung, 1802-1803

請求記号：A105-2 (貴重資料)

ドイツ観念論を代表する二人の哲学者によって発行された哲学雑誌。ヘーゲルはシェリングの庇護のもと、この雑誌を共同で発行し同時代の哲学者達に対する批判を行った。しかしヘーゲルが1807年『精神現象学』の出版においてシェリングを痛烈に批判したことで二人の親交は断たれた。



ゲーテ『ファウスト』1864年

Faust : eine tragödie / von Goethe. -- Stuttgart :

Verlag der J. G. Cottaschen Buchhandlung, 1864

請求記号：A942-60 (貴重資料)

15-16世紀にかけて実在したというドイツの錬金術師ゲオルグ・ファウストをモデルに作られた物語。実在のファウストの生涯に他の魔術師や様々な伝説が追加され、16世紀後半に《ファウスト》というキャラクターが誕生したと言われる。コッタ出版社は、ゲーテの専属と言われるほど関係の深い出版社であった。

レクラム出版社 Reclam-Verlag

1828年アントン・フィリップ・レクラム(1807-1896)がライプチヒで創業。1867年にドイツ古典主義文学の代表的な作家達の著作権保護が切れると同時に、小型で廉価版のレクラム百科文庫(Reclams Universal bibiothek)の発行を開始した。各国のあらゆる分野にわたる著作を収録し今年で刊行150年目になる。

日本ではこのレクラム文庫を手本に岩波文庫が発行された。



ローヴォルト書店 Rowohlt Verlag

1908年エルンスト・ローヴォルト(1887-1960)によって創業。1913年資金面で支援していた親友クルト・ヴォルフに会社を委譲し(クルト・ヴォルフ社として独立)、1919年第二次ローヴォルト書店を創業、ワイマール共和国の代表的な出版社として成功した。しかしナチス統制下で廃業、第二次大戦後、第三次ローヴォルト書店を創立した。

1950年に同社が始めた「ro・ro・ro Taschenbuch (ro・ro・ro ポケットブック)」は大きな成功を取めた。



平塚図書館 特設コーナー 「ドイツにふれよう」

2017年6月7日(水)-11日(日)にかけて学内で開催されたイベント「インターナショナルウィーク2017ドイツ」の一環として、平塚図書館ではドイツに関係する所蔵資料を集めた特設コーナーを設置しました。文学、芸術、歴史のほか、様々なジャンルの中から一度は聞いたことがあるキーワードで資料を集めました。特設コーナーの様子をご紹介します。

【特設コーナーの様子】

設置場所：平塚図書館カウンター前



特設コーナーは、平塚図書館の入口を入ってすぐ目に入る所、貸出カウンターのすぐ近くに設置したため、本を借りに来た学生も興味を示してくれたようでした。中には配架後すぐに貸し出された本もありました。

写真(左)は、配架資料の一部ですが、ドイツの街並みを紹介した写真集のほか、歴史的な建造物や美術作品を通してドイツの文化を知ることができる資料もあります。文学作品では、ドイツ出身もしくはドイツ語で小説を執筆している作家の作品を集めました。



写真(左)は、ブラック・ユーモアを扱ったことで有名なドイツのコミック作家ヴィルヘルム・ブッシュ (Wilhelm Busch, 1832-1908) によって描かれた作品集“Sämtliche Bildergeschichten”(拙訳：絵物語全集)です。本書には、2人のいたずら小僧を描いたブッシュの最高傑作とされる“Max und Moritz”(マックスとモーリッツ, 1865)も収録されており、表紙にはマックスとモーリッツの絵が描かれています。本文はドイツ語で書かれていますが、絵を見るだけでも楽しめる内容になっています。(経営学部 小澤幸夫教授寄贈)

◆請求記号：726.1-4

【その他 展示資料】

<哲学>

純粹理性批判 / イマヌエル・カント著; 石川文康訳; 上, 下. -- 筑摩書房, 2014. (請求記号: 134.2-21-1,2)

ヘーゲル・セレクション / G. W. F. ヘーゲル著; 廣松渉, 加藤尚武編訳. -- 平凡社, 2017. (請求記号: 081-4-852)

<芸術>

デューラー / Albrecht Dürer 画; H.T.Musper 解説; 千足伸行訳. -- 美術出版社, 1969. (請求記号: 720.8-Se 22-16)

エミール・ノルデ / Emil Nolde 画; Werner Haftmann 解説; 宝木範義, 大高保二郎訳. -- 美術出版社, 1970.

(請求記号: 720.8-Se 22-22)

<文学>

はてしない物語 / ミヒャエル・エンデ著; 上田真而子, 佐藤真理子訳; 上, 下. -- 岩波書店, 1997. (請求記号: 948-5-4,5)

ファウスト / ゲーテ著; 高橋義孝訳; 第1部, 第2部; 改版. -- 新潮社, 1996. (請求記号: 942-3-1,2), 他

書物の中のデューラー



アルブレヒト・デューラー（Albrecht Dürer, 1471-1528）は、美術史上において最も重要な画家の一人とされる芸術家である。ドイツ絵画を確立した画家であり《1500年の自画像》と呼ばれるこの作品を教科書で目にした人も多いだろう。絵画作品以上に版画家としての評価も高く、代表的な作品に銅版画《メランコリアI》や木版画集《黙示録》などがある。また、書物と深い関わりを持つ芸術家でもあり、その仕事は歴史的名著の中で観る事ができる。

デューラーは同名の父、金細工師アルブレヒト・デューラーの第三子としてニュルンベルクで生まれた。名付け親は当時のヨーロッパ最大の印刷業者、アントン・コーベルガーである。父のように金細工師になるべくピュラン（彫刻刀）の扱いを練習していた少年デューラーは、

やがて画家になりたいと思うようになり、15歳の時に画家ヴォルゲムートの工房に弟子入りした。

15世紀中頃に印刷術が発明されてから1500年までの間に印刷された書物は特に希少価値が高く、ラテン語でゆりかごを意味する“cunabula”を語源に持つ「インキュナブラ」という言葉で呼ばれる。中でもインキュナブラの至宝とされる書物が1493年に刊行された『世界年代記』である。旧約聖書をもとに世界の歴史、地理や珍聞を記録したこの大著には1809点もの木版画挿絵が付され、それらはデューラーが弟子入りしたヴォルゲムートの工房で制作された。デューラーは師匠達の仕事を見習いながら下書き制作に参加したと言われている。また、この書物を印刷したのが出版史に名を残す大印刷業者アントン・コーベルガー、デューラーの名付け親であった。



1490年デューラーは修業を終えて遍歴

旅行に出る。この遍歴時代にまたもデューラーは重要な書物に関わっている。1494年ドイツのバーゼルで刊行されたゼバスティアン・ブランド（Sebastian Brant, 1457-1521）の『阿呆船』である。“ヨーロッパで最初のベストセラー”といわれるこの作品は、人間の愚かさや教会の腐敗など当時のドイツ社会の惨状を厳しく批判した諷刺・教訓詩でその後のドイツ文学に大きな影響を与えた。そして本書の人気をより高めたのが全部で114枚付された木版画である。このうち73枚の木版画を制作したのが1492年頃バーゼルに滞在していた若き日のデューラーだと言われる。

活版印刷術は書物の大量生産を可能にしたが、書物が増えても当時文字を読める者は多くはなく、挿絵として付された木版画が内容を分かりやすく伝える役割を担った。また文字が読める者に対してもイメージを強く印象付け、時には書かれた文字以上に様々なメッセージや隠された意味を伝えた。『世界年代記』も『阿呆船』も挿絵がなければ書物の歴史に残る宝とはされなかったかもしれない。そして

これらを手掛けた芸術家、アルブレヒト・デューラーは1498年木版画集《黙示録》を刊行し、それまでの木版画の水準を一気に引き上げ、国際的名声を得たと言われている。

世界年代記 / ハルトマン・シェーデル（ファクシミリ版） 請求記号：A209-17（横浜貴重資料）
 阿呆船 / ゼバスティアン・ブランド 請求記号：A941-24 / A941-24.C
 黙示録 / アルブレヒト・デューラー 請求記号：B730-22

（資料サービス課 荏原 直子）

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

■夏季長期貸出について

貸出期間：7月10日(月)～9月15日(金)
返却期限：9月30日(土)
対 象：学部生
冊 数：10冊

■一般公開休止について

前期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を
休止いたします。
期 間：7月1日(土)～7月31日(月)

■一斉休暇に伴う休館について

期 間：8月11日(金)～8月17日(木)

横 浜

■夏季期間中の開館スケジュールについて

期 間：8月1日(火)～9月15日(金)
開館時間：9:30-18:00
○3Fは閉室します。
※日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

平 塚

■夏季期間中の開館スケジュールについて

期 間：8月1日(火)～9月15日(金)
開館時間：9:10-16:50
○視聴覚資料室は閉室します。
※土曜、日曜、祝日および一斉休暇期間は
休館です。

編集後記

横浜図書館の玄関を入り、階段を上ると、展示コーナーがある。ここでは主に本学図書館の所蔵資料紹介を目的に、数か月毎にテーマを変え展示を行っている。展示というものは本を並べて見せれば出来上がり、と簡単そうに思えるかもしれないが、これで結構手間も時間もかかる仕事である。まずはテーマをどうするか。これが決まれば半分以上できたも同然だが、なかなか思いつかない。次にそのテーマで展示できる資料はあるか、何をどこに並べるか、本は開いて見せるか閉じるか傾けるか、図版はきれいに仕上がったか、道具が足りない、時間が足りない・・・毎回、問題山積である。

主役である展示資料の素晴らしさを伝えるのは、資料に添えた解説文である。解説文を作るためにはその本を書いた人とその生涯、時代背景、著作にまつわるエピソード、後世に与えた影響など、多くを調べる必要がある。同じ事柄について記述が異なる場合もあるため、念のために複数の資料を確認する。最後に、読みやすくするため、調べた事の中から残すもの、そぎ落とすものを決めて簡潔にまとめる。時には一人で悩み続ける孤独な仕事でもある。

だが、今まで困った事は一度もない。いつでも図書館の本が助けてくれる。書架の前に立ち、本を手にとって開く。その中に今の自分を救ってくれる一文を見つけた時の嬉しさ。時には、古くなってほとんど読まれなくなった本の中に見出す、良質で豊かな世界。

助けを求めれば、本は必ず力になってくれる。図書館では130万冊を超える資料が、我々の力になると、静かに待っていてくれる。

(N.E.)

今号の表紙

ヴォネッケ『健康の庭』(零葉) ペーター・シェッファー印行 1485年
*Gart der Gesundheit / hrsg. von Johannes Wonnecke von Kaub --
Mainz : Peter Schöffer, 1485*

ペーター・シェッファーは15世紀ドイツの印刷者。グーテンベルクから印刷機材を没収したヨハン・フストに雇われ印刷業を引き継いだ。フスト=シェッファー印行の『マインツ詩篇』は、愛書家垂涎の書物と言われる。グーテンベルクの発明した印刷術の改良、書籍印刷業、販売業を国際的な規模で展開し、印刷文化を発展させた人物である。

